

福 祉

1 学習指導の工夫・改善

(1) 各教科等における探究的な学び

新学習指導要領では、学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成するために、教科等横断的な学習を充実させることが求められている。

また、各教科においては、「探究」の名称が付されていない科目等についても、それぞれの内容項目に応じて、探究的な活動は取り入れられるべきものである。各教科における探究的な学びには、探究のプロセス全体を通して資質・能力を育成するだけでなく、「整理・分析」や「まとめ・表現」など探究のプロセスの一部に焦点を当てることも考えられる。

福祉科においては、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、福祉を通じ、人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力の育成を目指すことが、教科の目標として学習指導要領に示されている。

この目標を実現するためには、仮説を立てて調査・研究・実験・実習などを行い、その学習活動を通して自己の学びや変容を自覚し、キャリア形成を見据えて学ぶ意欲を高める、福祉関係者や当事者などとの対話、生徒同士の討論といった自らの考えを広げ深める、福祉の見方・考え方を働かせ、福祉に関する知識と技術、事例など科学的な根拠に基づいて福祉の具体的な課題に取り組むなどの学習活動を展開することが重要である。

(2) 教科等横断的な視点を意識した年間指導計画の作成

教科等横断的な視点で評価計画及び指導計画を立案するには、新学習指導要領における各教科の目標や内容を把握して作成をしていくことが重要である。

特に、福祉科における学習内容は、社会福祉や人間の尊厳と自立などに関する内容を取り扱う公民科、家庭科、保健体育科、看護科などとの関連性が深いことから、該当教員間の連携を密にし、多角的な視点で学習活動を展開して生徒の深い学びにつなげることが重要である。

教科名	福祉	科目名	社会福祉基礎		
目標	福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会福祉の向上に必要な基礎的な資質・能力を育成する。				
履修学年	2年	単位数	2単位		
月	単元	学習内容	評価規準	評価方法	関連
4	社会福祉の理念と意義 (6時間)	○生活と福祉 家族の形態や家族の機能と役割、社会と組織、地域社会における社会構造やライフスタイルの変容、ヘルスプロポジションなど健康の考え方や疾病構造の変化などを取り上げるとともに、自立した生活と地域社会との関わり、少子高齢化の進行と介護の社会化、自助・互助・共助・公助の関係などについて学習する。	【知】 社会福祉について理解し、整理している。 【思】 社会福祉とは何か、様々な視点で考察し表現している。 【態】 社会福祉と生活を関連させ主体的に学ぼうとしている。	観察 ワークシート 小テスト	●公共 (公共的な空間を作る私たち) ●家庭総合 (障害の生活設計) ●保健 (健康の考え方) ●看護 (疾病の原因と生体の回復)

10	生活を支える社会保障制度 (35時間)	○児童家庭福祉と社会福祉サービス 児童及び家庭を支える社会福祉サービスについて、関連する法規や各制度の背景、理念、社会福祉サービスの概要及び現状について理解するとともに、子育て支援、少子化対策、児童の虐待など支援が必要な課題について学習する。	【知】 児童家庭福祉の現状や各制度について理解し、整理している。 【思】 児童家庭福祉の課題と解決方法について考察し表現している。 【態】 児童家庭福祉を支える社会福祉サービスについて、主体的に学ぼうとしている。	ワークシート 小テスト 発表 観察 グループ協議 自己評価シート	●公共 (公共的な空間における人間としての在り方生き方) ●家庭総合 (子供との関わりと保育・福祉) ●政治・経済 (現代日本における政治・経済の諸課題) ●家庭総合 (高齢者との関わりと福祉) ●保健 (生涯の各段階における健康) ●家庭総合 (衣生活の科学と文化、共生社会と福祉) ●美術Ⅰ (デザイン)	探究 問い 子育てのサポートの方法とは 問い 虐待をする心理や社会背景とは
11		○高齢者福祉と介護保険制度 高齢者を支える社会福祉サービスについて、介護保険制度と関連付けて扱い、関係する法規や各制度の背景、理念、社会福祉サービスの概要及び現状について学習する。	【知】 高齢者福祉の現状や介護保険制度について理解し、整理している。 【思】 高齢者福祉や各制度の課題と解決方法について考察し表現している。 【態】 高齢者福祉や各制度について、主体的に学ぼうとしている。	ワークシート 観察 実習 発表 自己評価シート (定期試験)		探究 問い 介護保険ではどのくらいお金が支払われるのか
12		○障害者福祉と障害者総合支援制度 障害者を支える社会福祉サービスについて、障害者総合支援制度と関連付けて扱い、関係する法規や障害の概念、障害の法的定義、障害者の実態、各制度の背景、理念、社会福祉サービスの概要と現状について学習する。	【知】 障害者福祉の現状や各制度について理解し、整理している。 【思】 障害者福祉や各制度の課題と解決方法について考察し表現している。 【態】 障害者福祉や各制度について、主体的に学ぼうとしている。	ワークシート 発表 観察 実習 自己評価シート		探究 問い 障害者を社会で支える方法・方策とは 問い 障害に応じたコミュニケーションの方法とは
1						

【知】は、知識・技術
【思】は、思考・判断・表現
【態】は、主体的に学習に取り組む態度を示す。

2 新学習指導要領における指導と評価の計画例

<単元：生活を支える社会保障制度>

(1) 単元の目標

- ア 生活を支える社会保障制度の概要と現状について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
- イ 生活を支える社会保障制度の現状に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的根拠に基づいて創造的に解決する。
- ウ 社会保障制度を地域や生活と関連させて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。

(2) 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活を支える社会保障制度の概要と現状について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	生活を支える社会保障制度の現状に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。	社会保障制度を地域や生活と関連させて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

単元の評価規準は、単元の目標の語尾を変換して作成する。

(3) 単元の指導と評価の計画 (35時間)

時間	ねらい・学習活動等	知	思	態
1～5 ○ 社会保障制度の意義と役割	ねらい：社会保険・社会福祉・公的扶助・社会手当・公衆衛生など日本の社会保障制度の意義や概要とその機能について考察する。 学習活動：教科書の内容を基に、社会保障の基本的な仕組みを整理し、社会福祉の基本的な仕組みや社会福祉が生まれてきた社会背景についてグループ協議する。		○	○
6～12 ○ 生活支援のための公的扶助	ねらい：生活保護制度を中心に公的扶助について理解するとともに生活困窮者自立支援制度や子供の貧困など複合的な課題を整理する。 学習活動：教科書の内容を踏まえ、厚生労働省のホームページや公的機関のパンフレット、インターネット等を活用してまとめる。	○		○
13～16 ○ 児童家庭福祉と社会福祉サービス	ねらい：児童及び家庭を支える社会福祉サービスについて理解するとともに、子育て支援、少子化対策、児童の虐待など支援が必要な課題について考察する。 学習活動：教科書の内容を踏まえ、新聞記事やニュースなど用いて事例を提示し、グループ協議を通して課題の解決策について考える。	○	○	○
17～24 ○ 高齢者福祉と介護保険制度	ねらい：高齢者福祉と介護保険制度に関わる知識及び技術を身に付けるとともに、自らが居住する地域や生活と関連付けながら現状に関する課題を発見し、解決の方向性について考察する。 学習活動：教科書の内容を踏まえ、フィールドワークや認知症ケアに係るロールプレイング、ゲストスピーカーとのディスカッション等を通して、地域の現状を把握し課題解決に向けた方策を考える。	○	○	○
25～31 ○ 障害者福祉と障害者総合支援制度	ねらい：障害者総合支援制度と関連付け、関係する法規や障害の概念、障害者の実態、社会福祉サービスの概要と現状などについて学習するとともに、自らが居住する地域や生活に関する課題を発見し、創造的に解決する態度を育成する。 学習活動：教科書の内容を踏まえ、関係する資料（新聞記事やコラム等）を読み、障害者福祉の課題等について主体的に考える。グループ協議や全体発表・共有・意見交換をする。	○	○	○
32～35 ○ 介護実践に関する諸制度	ねらい：人間の尊厳と自立に関する権利擁護や個人情報保護など介護実践に関する諸制度について理解する。 学習活動：教科書の内容を踏まえ、既習内容と関連付けながらワークシートや小テスト、定期試験を通して、医療保険制度や公的年金制度などの保険や医療の諸制度、医療関係者、医療関係施設、教育や育児・介護休業制度も含めた雇用関係、住宅支援、司法と福祉の連携、成年後見、虐待防止、日常生活自立支援事業、個人情報保護、ボランティアや福祉人材育成などについて理解を深める。	○		

(4) 学習指導案 (科目「社会福祉基礎」 27時間目／35時間中)

< 単元 生活を支える社会保障制度 障害者福祉と障害者総合支援制度 >

1 本時の目標 片麻痺を有する方の不自由となっている点を、障害者の立場に立って解決案を考え表現することができる。

[評価の観点] 【思考・判断・表現】
【主体的に学習に取り組む態度】

2 本時の展開

過程	指導内容	指導上の留意点	評価規準及び評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> 前時のワークシートを返却する。 ワークシートを配付し、本時の学習内容及び目標を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時のワークシートを返却する。 良い点や改善点を全体へ共有する。 ワークシート【思】【態】を配付する。 ワークシート【思】【態】を活用し、本時の学習内容及び目標を確認する。 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> 片麻痺の方が自らが着てみたいと考えている衣服（本時はパーカー）について着脱しやすい方法を考察させる。 個々の意見を整理させる。 ペアワークで自分と他者の意見の違いを整理する。 ワークシート【思】にイラスト及び注釈、考察した理由を記入させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に準備させた衣服を用い実際に片麻痺の状態を想定し、各自着脱させてみる。 本時では、着脱の方法にとどまらず、デザイン性を損なわずにファスナーやボタンを取り付けるなど工夫を施す視点も取り入れる。 ※科目「家庭総合」衣生活の科学と文化との関連 個々で意見を整理するよう促す。 机間巡視をし、本時の目標を再度全体共有させ、意識させる。 ワークシート【思】にイラスト及び注釈、考察した理由を記入させる。 福祉の見方・考え方を働かせ、障害者の視点で考えるとともに、科目「家庭総合」衣生活の科学と文化で学習した、健康で快適、機能的な着装を踏まえて記入させる。 	<p>[評価規準]【思】 片麻痺の状態の着脱方法やデザイン性を損なわない工夫について考察し表現している。</p> <p>[評価方法] ワークシート ※「(5) ワークシート【思】」参照</p> <p>[評価規準]【態】 片麻痺の方の衣服の着脱について、その方法や工夫を主体的に学び、粘り強く取り組もうとしている。</p> <p>[評価方法] 観察、ワークシート ※「(5) ワークシート【態】」参照</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに自己評価及び感想を記入させる。 ワークシートを提出させる。 次回の予告をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート【態】に自己評価及び感想を記入させる。 理解が深まった点や不十分な点などについて記入させる。【態】 ワークシート【思】及び【態】を提出する。 次回は、発表及び相互評価を実施することを伝える。 	

(5) 評価問題等


★ワークシート【思考・判断・表現】

社会福祉基礎 ワークシート
2年 組 番 氏名

評価の観点：思考・判断・表現

1 次の条件を踏まえ、片麻痺の方でも、健常者の方と同じ流行に沿った服を着ることができるよう、イラストの衣類に工夫を施すとともに、そのように工夫した理由を記入してください。

<条件>
①対象者
18歳、左麻痺、腕にしびれはあるが、時間をかければボタンをとめたり、ファスナーを上げられる時間がかかる。
②対象者からの要望
大きめのパーカーで、おしゃれなデザインが良い。
③対象者の困りごと
上からかぶる時、腕が痛いで、いつも前開きのデザインを購入している。

<イラスト（衣類）> ※注釈も記入してください！


<上記のように工夫した理由>

(教員評価) →

2 自己評価
本時の取組状況について、次のA～Cの中から該当するものを選びなさい。
(自己評価) →

A (十分満足できる)
→ 片麻痺の方でも簡単に着脱のできる工夫を具体的に考察できている。
B (おおむね満足できる)
→ 片麻痺の方でも簡単に着脱のできる工夫を概ね考察できている。
C (努力を要する)
→ 片麻痺の方には着脱は難しい内容である。

〈評価Bの例〉

〔記入例〕麻痺の袖から通しやすいように、脇の下のあたりにファスナーを取り付けてみるとよいのではないかと考えた。

〔評価のポイント〕片麻痺の状態の着脱方法について、考察できており、デザイン性を損なわない工夫も考えることができていると見取ることができるため「おおむね満足できる」状況(B)評価とする。

〈評価Aの例〉

〔記入例〕着るときは麻痺側からだどやりやすかった。肩から袖にかけて目立たないファスナーやボタン、磁石を活用し一目ではファスナー等が付いているとは分かりにくいのがよいと思う。おしゃれで流行を取り入れたワンポイントをデザインに取り入れてみた。

〔評価のポイント〕片麻痺の状態の着脱方法について、介護の視点を踏まえて考察するとともに、家庭総合での学習と関連付けてデザイン性を損なわない工夫を具体的に考えることができるため、「十分満足できる」状況(A)とする。

〈評価Cの例〉

〔記入例〕着脱を繰り返しやってみると麻痺のある人はパーカーは難しいと思った。前開きのパーカーにしたらいいのではないだろうか。

〔評価のポイント〕本時のねらいに合わない内容を記載しているから見取することができるため「努力を要する」状況(C)とする。
※C評価を有する生徒には、どのような点が困難だったのかを生徒と対話しながら答えに導いていく。

★ワークシート【主体的に学習に取り組む態度】

社会福祉基礎 ワークシート
2年 組 番 氏名

評価の観点：主体的に学習に取り組む態度

1 自己評価
本時の取組状況について、次のA～Cの中から該当するものを選びなさい。
(自己評価) →

A (十分満足できる)
→ 片麻痺の方でも簡単に着脱できる工夫について、主体的に学び、あらゆる側面から協働的に粘り強く取り組もうとしている。
B (おおむね満足できる)
→ 片麻痺の方でも簡単に着脱のできる工夫について、主体的に学び、粘り強く取り組もうとしている。
C (努力を要する)
→ 片麻痺の方でも簡単に着脱できる工夫について、学ぼうとしなかった。

2 感想
本時の学習を通して、理解が深まった点や、不十分な点などについて記入してください。

記入欄

(教員評価) →

〈評価Bの例〉

〔記入例〕片麻痺の方でも簡単に着脱できる工夫について考えることができた。パーカーの着脱について、自分だけではうまく考えることができなかったがペアワークを通して自分なりの方法を考えることができた。

〔評価のポイント〕学習に対して主体的に取り組み、自身の学習がより良いものとなるよう努めている部分を見取することができるため、「おおむね満足できる」状況(B)とする。

〈評価Aの例〉

〔記入例〕片麻痺の方でも簡単に着脱のできる工夫についてあらゆる視点で考えることができた。他の人とも協力することができ、他の色々な衣服や物でも工夫できるか考えてみたい。

〔評価のポイント〕主体的に学ぶ姿勢以外にあらゆる側面から調べ、他者に聞く姿勢や、他者と協力して粘り強く取り組む部分を見取することができるため、「十分満足できる」状況(A)とする。

〈評価Cの例〉

〔記入例〕片麻痺の方でも着脱できる工夫は、書けなかった。他の人とも協力することができなかった。

〔評価のポイント〕片麻痺の方でも簡単に着脱できる工夫について、考えることができず、課題に対する取り組む部分を見取することができなかったため、「努力を要する」状況(C)とする。




〈ワークシート活用の主なメリット〉

- ・授業の最初にワークシートで目標を提示し、目指してほしい到達度を可視化できる。
- ・授業の最後に客観的に自分を評価することで、その後の学習意欲の向上につながる。
- ・生徒の取組状況や理解度について、教員が状況を把握することができる。

実践事例

ここでは、授業にロールプレイを取り入れ、課題解決能力を養うとともに、言語活動を充実させるほか、ICT端末を活用し、生徒が自らの取組や考えを可視化しながら学習内容を深める事例を紹介する。

◆科目「生活支援技術」における1単位時間の指導と評価の計画

過程	指導内容	指導上の留意点	評価規準及び評価方法
1	本時の目標 サービス利用者の状態や状況に応じた、安全・安楽な移動の支援について理解するとともに、安楽な体位の保持や体位変換など関連する技術を身に付ける。【評価の観点：知識・技術】		
2	本時の展開		
導入	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を確認する。 前時の振り返りをする。 「介護技術の基本」で学習したことを基に、本時で学習することを関連付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の内容を提示・説明する。 既習内容の確認を行い、本時の学習内容に対する意識を高める。 グループごとにタブレットを配付する。 ※学習支援ソフトを用い、本時の課題を理解させるとともに本時の入力シートの内容について確認させる。 	
展開	<p><個人ワーク></p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の課題を理解する。 <p><グループワーク></p> <p>[ロールプレイの活用]</p> <p>【進め方】</p> <ol style="list-style-type: none"> 3～4名のグループに分かれる。 利用者役1名、介護士役1～2名、撮影係1～2名に分かれる。 与えられた課題に基づき、安全・安楽な移動の支援等に係るロールプレイを実践する。 タブレットで撮影した映像を視聴し、取組を可視化する。  <p><全体ワーク></p> <p>北海道地区介護技術コンテストの映像を視聴し、他校の生徒の取組を観察する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の状態や状況を理解する。 支援内容について個人思考する。  <ul style="list-style-type: none"> 入力シートを基に自分の考えを整理する。 ※手立てが必要な生徒には、既習内容を振り返らせながら丁寧に指導する。 ロールプレイの様子を撮影し、次時の導入で活用する。ICT端末の活用  <p>タブレットを用いて今回の支援内容の様子を撮影しておく、どのような考えを基に話し合っていたのか、次時の振り返りに活用できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループで考えを共有することを伝え、ロールプレイにおける支援方法や支援の際の声のかけ方について思考が広がるようにする。 声かけを通して、グループの考えの変容に気付くことができるようにする。 	<p>[評価規準]</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分なりの支援内容を見だしロールプレイやグループ内での共有を通して、利用者の状況や状態に応じた適切な支援技術を身に付けることができたか。【知】 <p>[評価方法]</p> <p>ロールプレイを観察</p> <p>グループ内での共有の様子を観察</p> <p>タブレットで撮影した映像を視聴</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 本時の感想と自己評価を入力シートに記入に送信する。 次回の学習内容について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> YouTube（限定公開）にアップロードして、家庭学習等の一環として活用するよう促すことも可能。 感想の内容に応じて、発表を促す。 